



国分寺フレーバーライフ社 本社ビル新築工事

提案の 概要



A. プロジェクト全体の概要

国分寺駅前に新築される「7階建て木質ハイブリッド造・事務所ビル」である。国内初となる7階建ての木質ハイブリッド耐火建築物であり、都市型・駅前型の中小ビルのプロトタイプとして設計・計画する。

B. 提案する木造化・木質化の取り組み内容の概要

木質ハイブリッド耐火部材を4～7階部分に採用。
低層階での木質外装材、木質外装ルーバー材の採用。

C. 提案のアピールポイント

プロトタイプとして設計・計画することによって郊外、地方都市の駅前等のビルへの木質建築物の波及・普及が期待できる。

波及・普及を促進する工夫として、柱梁ジョイント部分に着目した。ジョイント部分を従来の位置から変更することで、コスト縮減、施工の簡易化を目指す。



北側から見る外観

評価の ポイント



国分寺駅前に新築される、国内初の7階建て木質ハイブリッド耐火建築物の事務所ビル計画。木質ハイブリッド耐火部材を4～7階に採用し、低層階ではS造耐火被覆であるが木質外装材、木質外装ルーバー材を採用し、木をアピールしている。

鉄骨内蔵の木質ハイブリッドは過去にいくつか採択されているが、都市型狭小地に建つ建物に対してノンブラケット工法柱材による搬送方法の合理化や、短材である横架材のハイブリッド化に対する有効性などに工夫があり、優れている。また、この方式を採用することにより、接合部での木材の納まりにも、耐火性能を確保するための新たな工夫が必要となる。これらは、今後の設計者に参考となることが予想できる。都市型狭小地へのモデルケースとして普及波及効果が期待できる。



先端性・先進性

- これまでの耐火木造建築は6階まで、木質ハイブリッド耐火建築物は、5階までであった。本計画では、高層建築への波及を促す国内初の7階建てにチャレンジする。
- 木質ハイブリッド造のさらなる進化系として、ジョイント部分の集成材製作の合理化を検討する。
- 木質ハイブリッド耐火部材の工場製作の簡易化と標準化を促進し、製作期間の短縮、運搬作業の合理化を目指す。

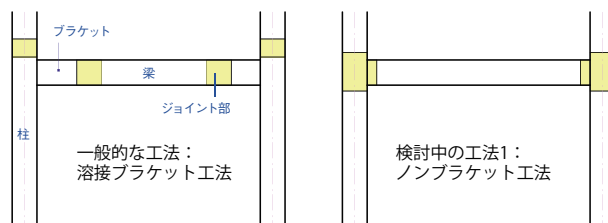
波及性・普及性

- 7階建ての採用によって高層建築物への波及が期待できる。
- 都市型、駅前型の中小ビルのプロトタイプとして設計・計画することによって郊外、地方都市の駅前等のビル街への木質建築物の普及が期待できる。
- 波及・普及を促進する工夫として、柱梁ジョイント部分に着目した。ジョイント部分を従来の位置から変更することでコスト縮減、施工の簡易化を目指す。

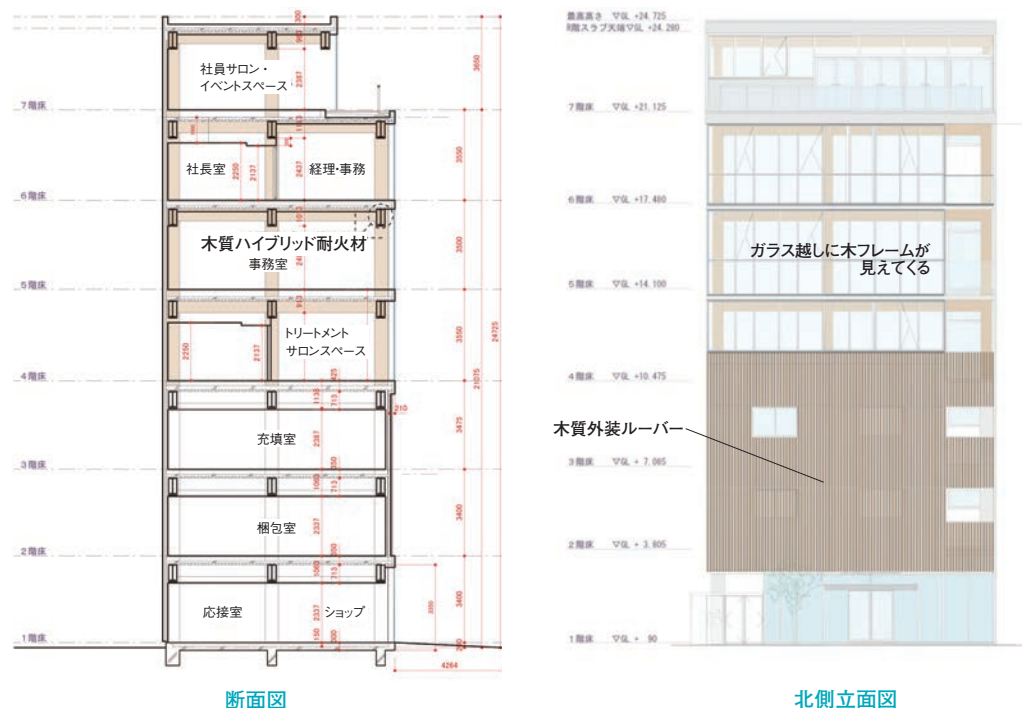
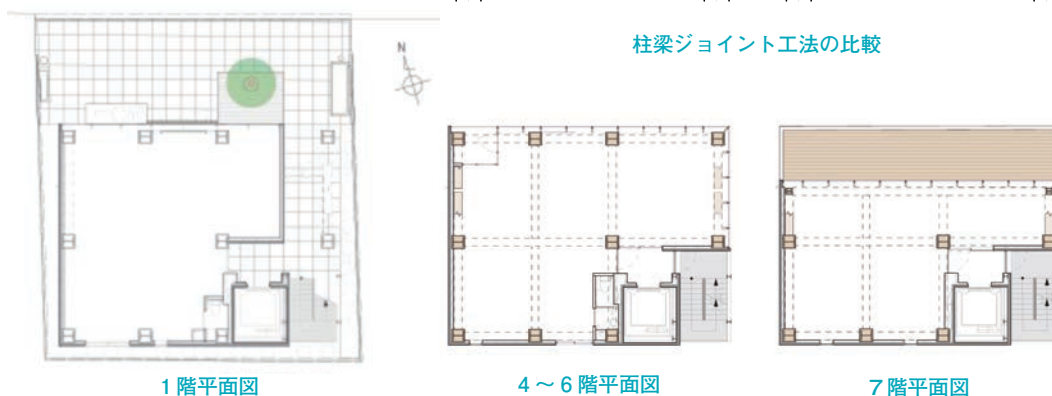
使用する木材、木質建材の特徴

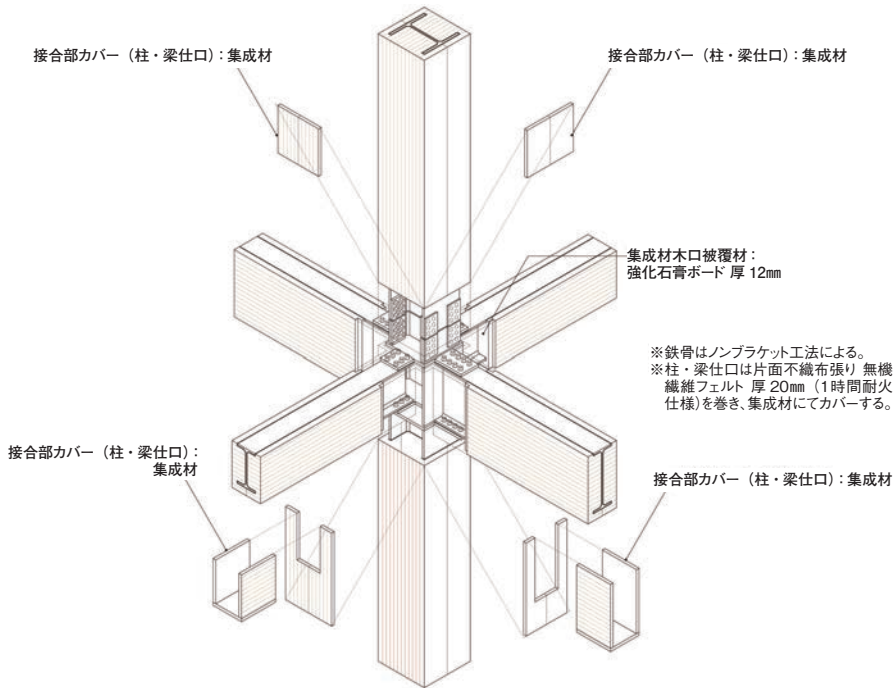
- 木質ハイブリッド耐火部材を4～7階部分に採用。
- 低層階では、外装に木質外装材、木質外装ルーバー材を採用。

建物全体は鉄骨造。2時間耐火の1～3階部分は一般耐火被覆とし、4～7階のオフィススペースに、1時間耐火部分にハイブリッド耐火集成材を採用した。木の温かみが、働く方々の快適な環境をつくりだす。



柱梁ジョイント工法の比較

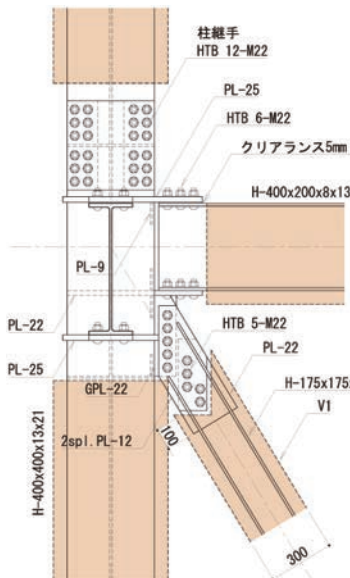




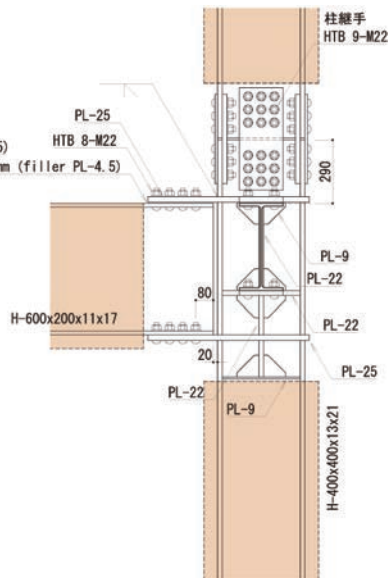
ノンブラケット工法の概要



ハイブリッド集成材による柱・梁およびノンブラケット工法のジョイント部



柱・桁ジョイント部詳細図



柱・梁ジョイント部詳細図

プロジェクト
データ



提案者 (事業者・建築主)、設計者・施工者、建設地は扉頁参照

建物名称: 国分寺フレーバーライフ社本社ビル

主要用途: 事務所

主要構造: ■木造 (□軸組構法 □枠組壁工法 □丸太組構法 ■その他 (木質ハイブリッド構造)) □鉄骨造 □鉄筋コンクリート造 □鉄骨鉄筋コンクリート造 □その他

防火地域等の区分: ■防火地域 □準防火地域 □法 22 条区域 □その他の地域

耐火建築物等の要件: ■耐火建築物 □準耐火建築物 (60 分耐火) □準耐火建築物 (45 分耐火) □その他の建築物

敷地面積: 180.87㎡

建築面積: 103.52㎡

延べ面積: 606.31㎡

軒 高: 24.125m

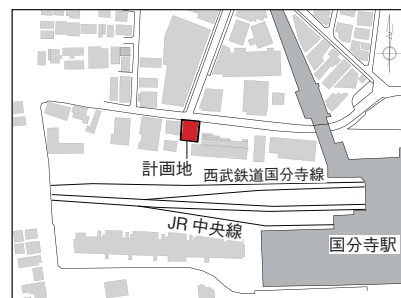
最高の高さ: 24.725m

階 数: 地上 7 階

事業期間: 平成 27 年度～ 29 年度

補助対象事業費: 325,448 千円

補助限度額: 50,787 千円





国分寺北口駅前通りから見る外観（夕景）



5階オフィス



6階オフィス



1階ショップのエントランス



2階イベントスペース